

公立阿伎留医療センター

No.76 平成 27年1月1日

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

地域医療連携室ニュース

発行 公立阿伎留医療センター
編集 地域医療連携室
TEL 042 (558) 0321
FAX 042 (550) 5190

CONTENTS

- ① 新年のご挨拶 院長 西成田 進
- ② 新任のご挨拶 腎臓内科 梅津 道夫
- ③ 平成26年度第2回登録医、登録歯科医及び地域医師会との情報交換会開催の報告
- ④ 10・11月分のご紹介患者数・紹介率について



新年のご挨拶 ～再生の第一歩～

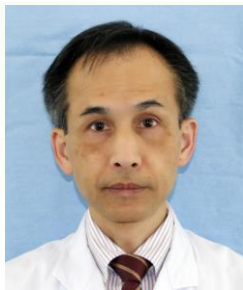
公立阿伎留医療センター 院長 西成田 進

あけましておめでとうございます。各施設の皆様にはお健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は「アベノミクス」の評価をめぐって日本の経済は二分致しました。デフレ脱却を狙う金融緩和政策が円安傾向を増長させ、国内企業はその企業特性によってこの円安大波に乗れたもの、乗れなかったものに分かれ、株価の上昇は企業資産の増加をもたらした一方で、その結果としての給与のわずかなアップは実質物価上昇によって相殺どころかむしろ目減りの状態であり、国家全体としてデフレ脱却の政策の恩恵はいまだ明らかではありません。

さて、医療経済はこのような社会全体の大波の上に漂いながら、社会保険料の伸び悩みと、国民の急速な高齢化、医療受給人口の急激な増加、高度医療による高額医療などによって逼迫の一途をたどっております。

昨年4月の医療制度の改定以降、地域における医療連携、包括医療の推進がより強く求められてきております。7対1看護を基礎にした急性期医療病床の削減、慢性期療養病床への移行推進を前提にした地域包括ケア病床の新設、在宅復帰を前提にしたあまたの介護支援に関する加算など、これらの医療制度の改定は各医療施設における具体的な「医療収入」を規定するものとなっております。しかしながら、行政指導による制度改定とは別に、医療を提供する側はこれらの制度の経済的な側面だけではなく、高齢化をベースにした患者さんのよりスムーズな、過不足のない医療の提供という視点を忘れてはなりません。そして結果として、これらの医療制度の改定が患者さんにとって満足のいく、老後の生活をより豊かにするものとして機能せねばならないことを肝に銘じておく必要があります。過日、古い友人から頂いた手紙によりますと、都内某区内にある15の特養の「待ち」人数は少ないところで700人、多いところで1500人とのことでありました。83歳の自分の親の順番が来るころには命がついてしまう、と悲鳴を上げておりました。総医療費の抑制を前提にして打ち出されてくる医療政策が、くれぐれも医療施設の経営基盤をゆるがすことのないように行政当局に強く訴えたいと思うところであります。他方、医療機関関係者におきまして「財政問題」に終始することなく、本来の社会的使命が国民の福祉と医療にあるということを肝に銘じておきたいと思うところです。本年がそのための(当然のこと)再生の第一歩の年であることを祈っております。



ご挨拶

腎臓内科 梅津 道夫

東京で研修医時代から10数年をすごし、その後神戸での10数年の生活を経て、卒後30年目で公立阿伎留医療センターに赴任しました梅津です。

水の惑星「地球」に生まれたのに、わざわざ水中から陸上に上がった生物がいます。ヒトもその仲間です。だから24時間365日、からだの中に「母なる海」の環境を作り維持しています。その担い手が腎臓です。そんな苦労も知らず我々は暴飲暴食、でもキャパの大きい腎臓という臓器は、黙々とオシッコを作り続け完璧調節。同時になぜか色々なホルモンを分泌して、血圧・造血・骨の新陳代謝の黒幕を演じています。こんな臓器を専門としています。

この腎臓が障害をうけると、結構お金のかかる事態が生じます。1兆円をはるかに超える医療費を費やす透析治療の原疾患は多くの場合、慢性腎臓病（CKD）と総称される病です。CKDは透析の原因になるばかりでなく、心血管病（心筋梗塞、脳卒中など）の大きなリスクになること、様々な疾患で予後悪化因子になることが分かってきました。つまり多方面に迷惑をかけています。

2015年は、このCKDの迷惑度を少しでも軽減すべく阿伎留医療センターや地域にあるリソース（実地医科の先生方、保健・福祉に関わる方々、食事療法に関係する方々、各種検査に携わる方々、各セクターをつなぐ方々等）を知り、十二分に活用する第1歩の年にしたいと思っています。

まずは、タンパク尿が続く方、明確な原因なく血清Cr値が正常値を逸脱した患者さんがいらっしやればご紹介のほどお願いいたします。

平成26年度第2回登録医、登録歯科医及び地域医師会との情報交換会開催報告

「平成26年度第2回登録医、登録歯科医及び地域医師会との情報交換会」を12月1日（月曜日）午後7時30分より登録医5名、地域医師会3名、歯科登録医11名の先生方のご出席のもとあきる野ルピア3階「ルピアホール」に於いて開催致しました。なお、当医療センターからは、企業長、院長、副院長（医療連携検討委員会委員長）、各診療科の部科長など関係職員合計44名が参加しました。



（企業長 荒川 泰行）



（院長 西成田 進）



（副院長 檜田 光夫）

第一部の事例検討では、

下記の二人の先生より示唆に富む題目の発表が行われました。

『精索捻転症』

（泌尿器科部長 朝岡 博）

『口腔内の腫瘍について』

（歯科口腔外科長 荻野 靖人）



発表後、質疑応答が活発に行われました。

第二部の 情報交換会では、
小机敏昭先生(あきる野市医師会長)と
葉山裕先生(秋川歯科医師会長)より、ご挨拶いただき、
また、各先生方より、自己紹介をしていただきました。



(小机クリニック
小机 敏昭先生)



(葉山歯科医院
葉山 裕先生)



(葉山医院 葉山 隆先生)



(高取歯科医院 高取 眞史先生)



(布田歯科医院 布田 博先生)



(秋川病院 植田 宏樹先生)



(檜原診療所 田原 邦朗先生)



(馬場内科クリニック 馬場 眞澄先生)



(梅郷診療所 江本 浩先生)



(奥村整形外科 奥村 徹先生)



(大塚歯科医院 大塚 秀男・明生先生)



(澤田歯科医院 澤田 章司先生)



(池田歯科医院 池田 篤史先生)



(越智歯科クリニック 越智通雄先生)



(功生歯科医院 黒葛原 史洋先生・古川 圭輔先生・舛田 強先生)

なお、当日ご欠席された先生方で『公立阿伎留医療センター地域医療連携関係資料』(医師プロフィール含む)や、症例発表の Power Point 資料等をご希望の方は、地域医療連携室までご連絡ください。

新任医師の紹介



(9月1日付)

耳鼻咽喉科 石川 淳一医師



(12月1日付)

腎臓内科 梅津 道夫医師

小児科診療体制についてのお知らせ

11月1日発行の地域医療連携ニュース 75号でお知らせした小児科診療体制の変更については、**入院診療等を含めて通常通りの診療体制に戻りましたので、引き続き患者さんをご紹介いただきますよう、お願い申し上げます。**
地域の先生方には、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

10・11月分

10月分・11月分の紹介患者数、紹介率、画像検査の紹介数をご報告致します

10月の紹介率は**31.3%**、FAXによる紹介患者さんは**154人**、持参による紹介患者さんは**319人**、合計**473人**でした。11月の紹介率は**32.5%**、FAXによる紹介患者さんは**95人**、持参による紹介患者さんは**277人**、合計**372人**でした。多くのご紹介誠にありがとうございました。

	10月	11月		10月	11月		10月	11月
内科	19	17	消化器内科	73	67	リウマチ科	1	
呼吸器内科	11	17	神経内科	10	2	整形外科	33	25
循環器内科	30	20	乳腺外科	5	17	泌尿器科	32	21
外科	12	5	脳神経外科	31	29	耳鼻咽喉科	16	17
小児科	14	3	眼科	16	20	歯科口腔外科	49	29
皮膚科	22	16	救急科	9	8	放射線科	60	37
産婦人科	5	4	回復期リハ	8	5	形成外科	1	3
緩和ケア科	15	10	麻酔科	1				

地域医療連携室ニュースの内容、紹介患者様の受診・入院等の問い合わせは、
 下記にご連絡をお願い致します。 地域医療連携室主幹 望月 尚子

電話番号 042-558-0321 (内線2123)

FAX番号 042-550-5190(地域連携室直通)

